

## 数学へのヒント

三保教室 中二 安井佑梨子

小学生の頃、私は算数が嫌いでした。苦手以前に、勉強したくない、どうせわからないだろうという思いから生じる「嫌い」でした。

黒板に書かれる公式と、口頭での解説でそのときの問題は分かっても、応用問題になると一切出来ませんでした。特に図形が分からず、教科書を見ても理解出来ないのは今でも少しあります。

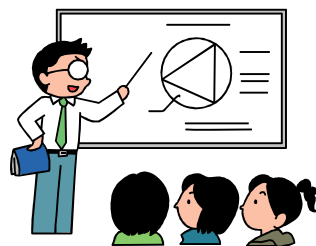
中学生になってから塾に入り、一対一での授業で、あることに気付きました。自分から避けて問題を解かないのは、とてももったいないことに正答出来なくてもまずは自分で解くことで、人に教えてもらおうと面白いぐらいに頭に入ってくるのです。そのことに気付いてから数学の問題はパズルや迷路のように感じました。絡まった糸を、少しずつ解いていくように、最後には一本の糸になったのです。

数学は積み重ねだ、と先生が言っていました。本当にその通りだと思います。今では数学と向き合うのは本当に楽しい遊びです。

### 課題(10月)

#### 『数学』

秋は焼芋のおいしい季節です。焼芋屋の「九里四里(栗より)うまい十三里(さつま芋)！」という呼び声も、足し算が入っています。このように日本人は、誰が解いても答えは一つという算数に昔から親しんできました。みなさんは、「数学なんて、社会に出て役立たない。」と、よもや思っていないでしょうか。数学の応用はビジネスに必須です。この科目は仲良しになっておきたいものですが、あなたは数学が好きですか？



#### 添削員からのメッセージ

数学にも食わず嫌い、ということがあるということ。これを佑梨子さんの作文が上手に教えてくれました。難しいから解けない、というジレンマから抜け出す様子について、工夫して比喩表現で表していたことにも感心しました。欲を言えば、書き出しの文をもう少し分かりやすく表せるとよいですね。普通の「嫌い」との違いが明確に表せるようにすると、が然分かりやすい書き出し文となるでしょう。

(山本)

## 秋の感じ方

東海大学駅前教室 中二 種物谷莉央

秋の訪れ。それを今この暑さの中、感じられて  
いる人はどのくらいいるのでしょうか。

もう九月だというのに、夏の暑さはおとろえず、  
私は暑さにいらだちを感じ、しかし夏休みの楽  
しい気分が抜けていないため、なんとも言えない  
不思議な感覚を味わっています。

私は祖父母と一緒に暮らしています。去年の  
九月中旬に、祖母に、

「こんなに暑くて、いやになるね。秋に全然なら  
ないんだから。」  
と言うと、

「何言ってるの。もう秋は来ているよ。」

と返されました。よく聞いてみると、毎日朝散  
歩していると、秋の風が分かるようになるのだ、  
とのこと。そこで私は今年から祖母の散歩につい  
ていています。祖母いわく、もう秋だそうです  
が、私には全く分かりません。慣れなのでしょう  
う。

私は、祖母流の秋の感じ方ができるよう修行  
をしています。

### 課題(9月)

#### 『秋の訪れ』

季節は進んでいるはずですが、気象  
の変化が激しくて、感覚が混乱状  
態のまま九月を迎えました。あなた  
の家の近くに、空き地はありません  
か。そこに息づいている雑草たちは、  
ちゃんと出番を心得ているよう  
です。少し探索散歩を試してみせ  
な。新学期への抱負も考えながら。

萩の花尾花葛花瞿麦の花女郎花

また藤袴朝顔の花

山上憶良

憶良の数えた野の花は、秋の七草で  
す。尾花は、すすきのこと、朝顔  
はききょうだと言われています。



#### 添削員からのメッセージ

莉央さんにとっての「秋」は、しっかりしたイメー  
ジに沿っていないと、暑さばかりが、感じとれるの  
だと思います。でも、おばあちゃんには、雲や空  
の色、草花や虫から、秋の気配を送ってもらえる  
のでしょうか。しかし、「修行」には感嘆しまし  
た。その真摯な態度に、自然からもエールが送  
られ、莉央さんの詩心をくすぐるかもしれませ  
んね。

(川口)